

## 令和2年度 ユニットセンターの評価視点について(案)

令和2年度年次評価				(参考) 令和元年度年次評価
総合評価指標		評価	備考	
フォローアップ状況	現参加率	各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する(評価は行わない)。	令和元年度年次評価に同じ。	各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する(評価は行わない)。
	質問票回収状況(6ヶ月~7歳までの合計の質問票回収率)	回収率が■%(平均)以上を◎とする。また、令和元年度、令和2年度と継続して回収率が0.5SD以上の場合は◎を加点する。	令和元年度年次評価に準じる。6ヶ月~7歳までの合計の質問票回収率の平均を計算して指標を設定する。	回収率が84.1%(平均)以上を◎とする。また、平成30年度、令和元年度と継続して回収率が0.5SD以上の場合は◎を加点する。
	質問票回収率の維持状況(6ヶ月回収率と7歳回収率の差)	差異ポイント■ポイント未満を◎とする。	令和元年度年次評価に準じる。6ヶ月回収率と7歳回収率の差を計算して指標を設定する。	差異ポイント17ポイント未満を◎とする。
	質問票回収率の直近の改善状況(昨年度の回収率の傾向比較)	傾き差異がプラスの場合を◎とする。	令和元年度年次評価に同じ。	傾き差異がプラスの場合を◎とする。
エコチル調査に係る業務全般の取組状況	エコチル調査に係る業務全般に関する取組のPDCA評価	PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合を◎とする。  <PDCAの取組の視点> ①参加者の調査参加へのモチベーションの維持 ②質問票回収率の維持・向上 ③コミュニケーション活動(単純な広報活動とは別に、イベントへの参加人数、イベント参加者へのアンケート・ヒアリング結果やその対応状況等を総合的に評価) ④アウトリーチ、その他 ※ただし、コミュニケーション活動等については、新型コロナウイルスの感染状況により、大きく諸活動が制限されたことに留意して評価を行う。	令和元年度年次評価に同じ。  ①ユニットセンター同士で、お互いのPDCAの取組を読みその中から「良い取組」と思われる取組を5つあげる※。 ※自らのユニットセンター及び関連するセンター等(例えば、宮崎サブユニットセンターと沖縄サブユニットセンター同士)を除く取組の中から◎としてあげる。  ②①の集計結果を踏まえ、第2回評価WGにて、評価WG委員が「特に優れた取組PDCA」として◎をつけるユニットセンターを選定する。	PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合を◎とする。  <PDCAの取組の視点> ①参加者の調査参加へのモチベーションの維持 ②質問票回収率の維持・向上 ③コミュニケーション活動(単純な広報活動とは別に、イベントへの参加人数、イベント参加者へのアンケート・ヒアリング結果やその対応状況等を総合的に評価) ④その他  ※令和元年度は5以上のUCから互選があったUCに、評価点を加点した。
エコチル調査の成果	学術論文等の発表	特に優れた学術論文や成果発表があった場合を◎とする。	令和元年度年次評価に同じ。  ①ユニットセンター同士で、これまでに発表された論文について、論文数や論文の質等を総合的に評価し、「論文発表について優れたユニットセンター」を3つあげる※。 ※自らのユニットセンター及び関連するセンター等(例えば、宮崎サブユニットセンターと沖縄サブユニットセンター同士)を除くユニットセンターの中から◎としてあげる。  ②①の集計結果を踏まえ、第2回評価WGにて、評価WG委員が「論文発表について特に優れたユニットセンター」として◎をつけるユニットセンターを選定する。	特に優れた学術論文や成果発表があった場合を◎とする。  ※令和元年度は10以上のUCから互選があったUCに評価点を加点した。
エコチル調査ルール の遵守及び管理状況	個人情報の管理状況 成果発表ルールの遵守状況	ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上(年度をまたぐ場合を含む)同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。	令和元年度年次評価に同じ。	ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上(年度をまたぐ場合を含む)同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。
総合評価の考え方		S: ◎が5個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が4個 A: ◎が3個以上ある(学術論文発表を除く) B: ◎が1個又は2個ある(学術論文発表を除く) C: ◎がない又は2回以上(年度をまたぐ場合も含む)同じルール違反がある ※但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる	令和元年度年次評価に同じ。	S: ◎が5個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が4個 A: ◎が3個以上ある(学術論文発表を除く) B: ◎が1個又は2個ある(学術論文発表を除く) C: ◎がない又は2回以上(年度をまたぐ場合も含む)同じルール違反がある ※但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる